

平成18年度 病害虫発生予察指導情報  
対象病害虫：イネ白葉枯病

平成18年7月20日  
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

梅雨前線の停滞によって15日から降り始めた雨により、県内の一部で水田の冠水又は浸水が認められた。

浸冠水が認められた水田では、今後、イネ白葉枯病の発生が予想される。本病は、発病後の浸冠水、風雨等によって急激にまん延することから、今後の発生に注意する必要がある。

2 発生状況等

(1) 7月15日現在、巡回調査定点における本病の発生は確認されていない。

【参考】近年では、平成9年に低湿地帯を中心に本病が大発生している。

(2) 今回の浸冠水による発病は、7月末～8月初旬頃から始まると予想される。

(3) 「ひとめぼれ」および「おまちかね」は本病に極めて弱いので注意が必要である。また、多肥条件下で発生が多くなる。

3 防除対策

(1) 本病防除の特効薬であるシラハゲン粉剤Sについては、すでに製造が中止されていることから、入手できない状況となっている。

(2) シラハゲン粉剤S以外の使用可能な薬剤として、オリゼメート粒剤、オリブライト1キロ粒剤等が農薬登録されているが、感染後の散布では十分な効果は期待できない。

(3) 発病ほ場から周辺ほ場への発生拡大を防止するために、以下の対策を講じる。今回浸冠水していない周辺ほ場に、オリゼメート粒剤(3～4kg/10a)を湛水散布する。

なお、移植期に以下の育苗箱施用剤を使用している場合でも、発病抑制効果が期待できるのは7月下旬頃までである。

- ・プロベナゾール24%を含む薬剤(Dr.オリゼプリンス粒剤10等)
- ・チアジニル12%を含む薬剤(ブイゲットプリンス粒剤10等)

農薬の使用にあたっては必ず農薬使用基準を遵守すること。